

## 患者の皆さまへ

当院では、保有する既存試料・情報を用いて下記の研究を実施しております。このような研究の実施に当たっては、研究対象者の方に研究の参加を拒否する権利が保障されております。(オプトアウト)  
この研究に関するお問い合わせなどありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

### 記

研究機関名	市立豊中病院
倫理委員会承認日	2020年 8月11日
研究期間	2024年 8月31日 まで
研究の名称	3. 胃静脈瘤に対するバルーン下逆流性径静脈的塞栓術(BRTO)施行症例の多施設共同 後向き研究
研究対象	2004年1月1日から2019年3月31日までに市立豊中病院および大阪大学 消化器内科の各共同研究機関において胃静脈瘤に対し初回BRTOが施行 された方
対象材料	診療記録
対象期間	2020 年 7月～ 2024年 8月
研究の目的意義	肝硬変になると肝繊維化の進展に伴い、肝臓に向かう門脈という血管の抵抗が上昇します。その結果、門脈血流は側副血行路を形成し、食道静脈瘤、胃静脈瘤が形成されることがしばしばあります。胃静脈瘤からの出血の頻度は20-30%程度と報告されおり、出血前に適切な予防的治療を行うことが重要であると考えられています。胃静脈瘤に対する治療としてBRTOが1990年代初頭に初めて施行され、その後その安全性、治療効果から日本門脈圧亢進症学会や日本消化器内視鏡学会でも胃静脈瘤治療の方法として推奨されてきました。2017年に使用薬剤であるモノエタノールアミンオレイン酸塩の胃静脈瘤に対する適応が追加され、2018年にはBRTOが保険収載されました。BRTOの治療効果は非常に良好と報告されていますが、一方でその肝臓のはたらきへの影響や食道静脈瘤への影響などについては報告が少なく、更なる検討が必要と考えられます。
方法	市立豊中病院を含む大阪大学消化器内科の各共同研究機関において、胃静脈瘤に対しBRTOが施行された患者さんを対象として、BRTOの治療効果、肝臓のはたらきへの影響や食道静脈瘤への影響、長期予後について後向きに検討を行います。
個人情報の取り扱い	本研究のデータは、研究目的の達成に必要な範囲を超えて取り扱わず、安全に管理する。研究結果から個人が特定されることはない。
問い合わせ先	市立豊中病院 消化器内科 松本健吾 TEL 06-6843-0101